

輸出事業計画

※申請者名：若鶴酒造株式会社、品目：酒類（ウイスキー・リキュール・日本酒）

1. 輸出における現状と課題

【現状】

当社は、日本酒、ウイスキー、リキュール、スピリッツ、焼酎など幅広い酒類を製造し、2019年より本格的に輸出の取組を展開することとした。直近2021年度（2020年10月～2021年9月）の輸出額は103,832千円であり、取組を開始した2019年度の輸出額21,882千円と比較すると5倍近くに増加している。輸出先に関しては中国、香港、台湾を中心としたアジア圏からオセアニア、ヨーロッパ、北米までに拡大し、商品としては昨今の世界的ウイスキー人気を背景にウイスキーの輸出が増えており、このウイスキーと合わせたかたちで日本酒、リキュールの引き合いも増えている中、今後さらなる輸出拡大を目指して取り組んでいる。

【課題】

更なる輸出拡大を目指す中、海外大手小売チェーンから引き合いがあるが、食品の安全性に関して輸出向けHACCP等の認証取得が取引条件となっており、製造設備と環境の改善を含めISO22000認証取得が課題となっている。

日本産酒類の品質評価が高まっている背景から、引き続き国産原料の確保と品質保持に注力する。また、海外市場におけるブランド認知が不足しており、ブランディングを強化する。

2. 輸出事業計画の取組内容

1. 輸出向けHACCP等の認定・認証取得

取引条件に輸出向けHACCP等の認証取得が必要となった。HACCP専門家とコンサルティング契約を結び、ハード対策を含めた取得全般のコンサルティングを開始し、2023年2月のISO22000認証取得に向けて取り組んでいる。

2. ISO22000認証取得に向けたハード対策

ISO22000認証取得に向けた専門家によるコンサルティングの中で製造環境および製造設備について食品衛生上の対策が必要との指摘を受け、改善に向けたハード対応を開始した。

3. 国産原料の確保

日本酒の原料となる酒米の多くは富山県産の五百万石と雄山錦を使用しており、その調達に関しては富山県酒造組合や農業協同組合と協力し安定確保を進める。また、リキュールの原料となる梅についても富山県産の稲積梅と福井県産の若狭梅の生産者と関係を深めながら品質向上と数量確保に取り組む。

4. 海外におけるウイスキーブランドの確立および日本酒、リキュールの認知度アップ

ウイスキー業界において三郎丸蒸留所は世界的に有名になってきているが、まだブランドの確立までは至っておらず、また、日本酒とリキュールは知名度のない状況であるため、輸出マーケティング専門家のアドバイスを受けながら、今後はJETROや富山県と連携し、ウイスキーブランドのPRを行い、さらに日本酒とリキュールの認知度アップを図る。

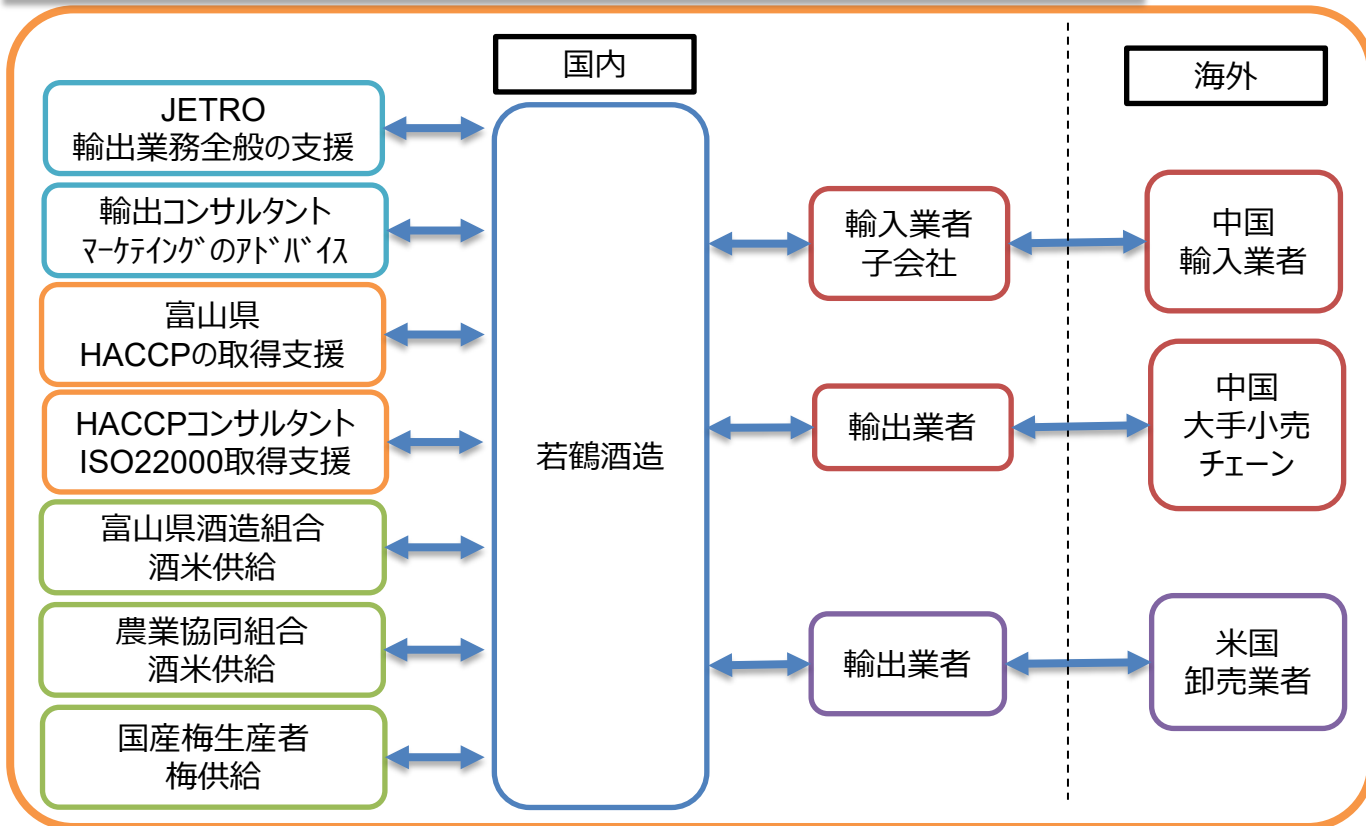
（年度別事業計画）

		2022年	2023年	2024年
1. 輸出向けHACCP認証取得 ISO22000認証・取得 コンサルティング	・ISO22000対応整備 ・認証取得 ・ISO22000運用	→	→	→
2. ISO22000認証取得 ハード対応	・製造棟施設 ・充填ライン設備 ・蒸留設備 ・原料・資材倉庫 ・排水処理施設	→	→	→
3. 国産原料の確保 情報連携	・富山県酒造組合 ・農業協同組合 ・梅生産者との連携	→	→	→
4. 海外におけるブランド確立と認知度アップに向けた連携	・JETRO ・富山県	→	→	→

輸出事業計画

※申請者名：若鶴酒造株式会社、品目：酒類（ウイスキー・リキュール・日本酒）

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



4. 輸出目標額

輸出品目		現状 (2021年度)	目標年 (2025年度)
ウイスキー	輸出額(千円)	68,729	146,924
	輸出量 (kl)	9.5	26.8
	輸出先国	中国、台湾、スウェーデン	中国、台湾、米国
リキュール	輸出額(千円)	29,150	34,980
	輸出量 (kl)	24.1	28.9
	輸出先国	中国、台湾、香港	中国、台湾、香港
日本酒	輸出額(千円)	5,953	29,568
	輸出量 (kl)	2.3	16.1
	輸出先国	中国、香港、カナダ	中国、香港、米国
合計	輸出額 (千円)	103,832	211,472
	輸出量 (kl)	35.9	71.8